

## 関東ふれあいの道を歩く（埼玉）②奥武蔵の古刹を訪ねるみち

2020年8月16日 池内淑皓

2020年（令2）8月8日（土）やっと長い梅雨が明けて、晴れ間が見えて来た。新型コロナウイルスのためGoToトラベルも自粛ムードであるが、ふれあいの道を歩きに出かけた。

前回歩いた「埼玉①水源のみち」の最寄りバス停は「河又名栗」であったが、今回はその先「小殿」バス停をスタートし竹寺、豆口峠、子の権現を訪ねる9.5km3時間30分のコースである。



(首都圏自然歩道連絡協議会)

### 関東ふれあいの道を歩く（埼玉）13コース図



関東ふれあいの道を歩く（埼玉）②奥武蔵の古刹を訪ねるみち 概念図



小殿バス停スタート→竹寺→豆口峠→子の権現→東郷公園→吾野駅ゴール



今日の最寄り鉄道下車駅は「西武鉄道池袋線 飯能駅」



バス出発時は 20 名程乗車したが、全員がさわらびの湯バス停で下車した。白谷沢を遡行するハイカー達だ  
私はこの先小殿でバスを降りる。天気あまり良くない



バス停前にはトイレ、東屋、そしてこれから歩く案内板が整備されている



道標に従ってバス道路を 100m程歩くと



竹寺に向かう道しるべが建つ。ここには大正 14 年に建てられた竹寺への石柱もある



いつもの通り山への取り付け道は、いきなり急登となり、一気に汗が噴き出す



30分程辛抱して喘げば、やがて尾根の上に出て、道は少し緩やかになる



快適な尾根道になってきた



竹寺が近くなると石の道しるべも出てくる



「竹寺」竹寺は神仏混淆の場所で、仏と神が同居している。まずは茅の輪を潜り、神社に向かう



本尊は「牛頭天王」で創建は天安元年（857）、開基は円仁（慈覚大師）

円仁が東国巡礼の際、此の地に疫病が多いのを憐れみ、ここに道場を作り、護摩秘法を修したのを開山とした



竹寺は薬寿院八王寺と言ひ、山岳信仰の道場として千余年の歴史を持つ



ここから子の権現への道は、神社の裏手から谷を詰めるように登ってゆく



「豆口峠」名栗から中沢方面へ抜ける道で、別名「神送り場」という名称が付けられている。案内板を読んでもみよう



ここからまたしばらく、木の根がはびこる尾根を歩いたり



樹林の中を行く



豆口峠から小一時間、子の権現入口に到着、山門を通らず寺の裏手がコースとなっている



「雲洞院天龍寺」(子の聖大権現) 延喜 11 年 (911) 子の年、子の月に生まれた子の聖がここに庵を結んだのが起源と伝える。



境内には本殿もあり神仏習合の代表的な場所。本尊は 11 面観音。明治の廃仏毀釈の影響はここまで届かなかった





ここには2トンもの鉄わらじや鉄下駄が奉納されており、大きさ重さは日本一だと言う。  
足を使う人たちの信仰が特に厚い（飛脚、関取、車夫、スポーツ選手）



関東ふれあいの道は、お寺の裏から境内に入って、表門から抜けるようなコースとなっている。  
寺社を参拝してから、この門を潜り姿婆にでると、



今度は神社の赤い鳥居をくぐって門前の土産物店前を通る。（写真とは反対に歩いている）



鳥居前には埼玉県天然記念物、樹齢800年の大杉があるが、落雷で半壊していた



境内を抜けて、西吾野方面に向かう舗装道路と別れて林道を下る



15分下ると「降魔橋」を渡る。この橋は子の聖がこの山域に入る時、妨害をした鬼達をここで退治した場所だと伝える。



降魔橋から先は舗装道路で、山村の集落を縫いながら駅に向かう



高麗川を渡る芳延橋手前は東郷公園で、トイレ休憩のあと道は橋を渡らず、川沿いに駅に向かう



ちよっとすてきな高麗川沿いの遊歩道を歩いて 20 分、西武線吾野駅（あがの）に到着



吾野駅発 15:09 に乗れば、飯能駅で横浜中華街行の急行に接続し、そのまま横浜まで乗り換えなしで帰れるから、売店でビールを多めに買い込んで車中で乾杯しよう。

[参考タイム] 飯能駅 (8:30) →小殿バス停 (9:25) →竹寺 (10:35-10:45) →豆口峠 (11:15) →子の権現 (12:15-12:50 昼) →東郷公園 (芳延橋) (14:15) →吾野駅 (14:35 着)

この項完

関東ふれあいの道を歩く (埼玉) ③伊豆が岳を越えるみち に続く